



椎間板ヘルニア

■ 病気の概要

背骨の間でクッションの役割をする椎間板が飛び出し、脊髄を圧迫して痛みや麻痺を起こす病気です。ダックスフンド・フレンチブルドッグ・トイプードル・ビーグルなどに多く見られます。軽症は痛みのみですが、重症では後ろ足が動かなくなり、進行すると排尿もできなくなります。発症から時間が経つほど回復が難しくなるため、早めの対応が大切です。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・抱き上げると痛がって鳴く・震える
- ・背中を丸めて動きたがらない
- ・段差や階段をいやがる
- ・後ろ足がふらつく・引きずる
- ・足の感覚や動きがなくなる（麻痺）
- ・自分でおしっこができない（重症）

■ どんな検査をするの？

- ・神経学的検査（麻痺の程度・グレード評価）
- ・レントゲン検査（ほかの病気の除外）
- ・MRI 検査（ヘルニアの位置・脊髄圧迫の評価）：専門施設をご紹介します
- ・CT 検査（必要に応じて専門施設をご紹介します）

■ 治療方法

内科治療（軽症）

- ・安静（ケージレスト 4～6 週）
- ・消炎鎮痛薬・ステロイド
- ・痛みの管理
- ・リハビリテーション

外科治療（重症）

- ・椎間板物質を除去し脊髄の圧迫を解除する手術（片側椎弓切除術など）
- ・MRI で手術の適応を評価
- ・手術は専門施設をご紹介します

■ ご家庭で気をつけること

- ・指示された期間はケージで安静にする（自由に動かさない）
- ・滑りやすい床にマットを敷く
- ・ソファ・階段の昇り降りや抱き方に注意する
- ・肥満は背骨の負担になるため体重管理をする
- ・排尿の有無を確認し、出ていなければすぐにご連絡ください

■ よくある質問

Q. 手術は必ず必要ですか？

A. 軽症（痛みのみ・軽い麻痺）は安静と内科治療で回復することがあります。重症や進行する場合は手術をお勧めします。

Q. 後ろ足が動かなくても治りますか？

A. 足の感覚（痛覚）が残っていれば手術で回復が期待できます。感覚が失われている場合は時間との勝負で、できるだけ早い手術が望まれます。

Q. MRI はどこで撮りますか？

A. 当院では行えないため、専門施設をご紹介します。ヘルニアの位置と手術適応の判断に重要な検査です。

Q. 再発しますか？

A. 別の場所で再発することがあります。体重管理と生活環境の工夫が予防に役立ちます。

■ なつ動物病院での診療について

当院では神経学的検査による重症度の評価と、軽症例の内科管理・痛みのコントロールを行います。MRI や手術が必要な場合は専門施設をご紹介します。「急に立てなくなった」「後ろ足を引きずる」「おしっこが出ない」は緊急性が高い状態です。診察時間内は最優先で対応します。夜間・時間外は北九州夜間救急動物病院（車で約 40 分）または福岡夜間救急動物病院（車で約 90 分）をご利用ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください